

小浜市北陸新幹線新駅周辺エリア基本計画策定業務 第3回策定委員会 議事要旨
令和8年6月26日 18:00～20:00

当日席順

事務局	市民代表 鈴木委員		事務局
	市民代表 森下委員	市民代表 濱詰委員	
	市民代表 滝委員	市民代表 芝田委員	
	若狭おばま観光協会 原田委員	(株)まちづくり小浜 青木委員	
	若狭青年会議所 吉村委員	小浜市 PTA 連合会 大江委員	
コンサル タント	男女共同参画ネットワーク 朝倉委員	小浜市区長連合会 朝日委員	
	小浜商工会議所 奥東委員	小浜市議会 下中委員	
	福井大学 川上委員	小浜市議会 藤田委員	
		福井県立大学 教授 松原委員長	

1. 開会

【事務局】

- 委員が2名交代する。土地改良協会について、森田委員から奥井委員に交代する。小浜市 PTA 連合会について、安田委員から大江委員に交代する。

【委員】

- 皆様、よろしくお願いいたします。

【事務局】

- 本日の欠席者は、小浜市農業委員会の松尾委員、および地域・教育コーディネーターの村宮委員である。

2. 委員長あいさつ

3. 『小浜市新まちづくり構想』のアップデートについて

<質疑応答>

【委員】

- ・『小浜市新まちづくり構想（以下、新まちづくり構想）』（参考資料 1 P2 2 段目）について、北陸新幹線の全線開業が 2038 年（令和 20 年度末）より早い実現に向けてという記載があるが、現時点では着工認可が下りていない。今年度内に着工認可が下りたとしても、最短工期となる小浜京都ルート南北案でも 25 年を要するため、最短でも 2051 年になるのではないか。2038 年より早い全線開業という記載は矛盾している。

【事務局】

- ・最短工期でも 25 年を要することを踏まえて、数字を修正する。

【事務局】

- ・『新まちづくり構想』の改定は、『小浜市新幹線駅周辺エリア基本計画（以下、基本計画）』の策定と併せて、年明けを予定している。今回提示しているのは、主なアップデート方針に関わる箇所をかいつまんで更新した暫定版であり、文章は今後精査していく。ご指摘を踏まえて、文章を修正する。

【委員】

- ・2038 年（令和 20 年度末）という具体的な目標年次を記載するのではなく、1 日も早い全線開業を目指すと表現するとよいと思う。
- ・表記が、「御食国」と「御食つ国」が混在しており、「御食つ国」が多く見られるが、これに関して何か意図はあるのか。

【事務局】

- ・「御食国」が正しいので修正する。

【委員】

- ・『新まちづくり構想』については、今後詰めなおすのか。

【事務局】

- ・今回は、主なアップデート方針を確認いただくためにお配りしている。パブコメまでの期間に、委員会を 2 回開催する予定であり、いずれかの委員会でアップデート案を提示する予定である。

【委員】

- ・WS やアンケート結果に関してのご意見はないか。

【委員】

- ・WS では様々な意見が出るので、その結果について良し悪しを判断するものではない。提示された結果について、特に意見はない。

【委員】

- ・WS やアンケートの結果は公表するのか。

【事務局】

- ・WS の結果は市の HP にて公開する予定である。

4. 『小浜市新幹線駅周辺エリア基本計画』の検討について

<質疑応答>

【委員】

- ・まず、説明内容に対しての質問を伺い、その後名簿の順に各委員からご意見をいただ

きたい。

【委員】

- ・『基本計画』（参考資料 2 p1 左側）について、2 と 3 の番号が逆になっているがこれは誤植か。

【事務局】

- ・誤植である。修正する。

【委員】

- ・『基本計画』（参考資料 2 p3 下側）について、本文中に「発進する玄関口」と記載あるが、これはどういうものか。

【事務局】

- ・情報発信のことである。修正する。

【委員】

- ・二次交通とは、どのような意味か教えていただきたい。

【事務局】

- ・二次交通は、新幹線で来られた方が、新幹線駅から目的地へ向かう間の交通のことを意味している。

【委員】

- ・自家用車を指しているのか。具体的に教えていただきたい。

【事務局】

- ・例えば、バス、レンタサイクル、レンタカー等の手段が考えられる。

【委員】

- ・これまでも、在来線とのアクセスが重要であるという意見があった。具体的な二次交通のあり方についてまとが絞れていない。

【事務局】

- ・具体的にどのような二次交通を整備していくかは、次の段階の検討である。今回検討している『基本計画』は、今後の駅周辺の方向性や方針を定める計画であり、具体的な施策を決定する計画ではない。

【委員】

- ・今後、駅周辺のゾーニングが具体化されていけば、二次交通のイメージもできると考える。

【委員】

- ・金沢駅では、駅前に鳥居のような構造物があり、最初は非難されていたが今ではシンボリックな存在になっている。また、越前たけふ駅では、当初は計画になかった村田製作所の施設ができたことにより、企業誘致が盛んなまちのイメージがついた。
- ・最初に全て計画しておく方がよいのか、新幹線駅ができてから何かを誘致できる可能性を残しておくべきか、どちらがよいのかは判断が難しい。
- ・計画として、JR 小浜線との乗換動線の整備は最低限入れるべきだと思う。他に、道路は必ず片側 2 車線にすること等も考えられる。また、無人運転車に対応可能な、技術の進歩を見据えたまちづくりも考えられる。
- ・

【委員】

- ・越前たけふ駅でも、企業誘致の可能性は当初から想定されていたのではないかと。

【事務局】

- ・越前たけふ駅では、開発区域を拡張していくような段階的な整備を行っている。具体的に何が出来るかは確定していなくとも、これからの変化に対応できるような柔軟性のある計画にしていくべきだと考える。

【委員】

- ・新幹線駅には成功例も失敗例もあるので、次回の委員会では様々な事例を見せていただきたい。

【委員】

- ・整備コンセプトの「古から新時代への架け橋となる若狭おばま交流ゲートウェイ」は素晴らしいと思うが、全体的にみると、競争戦略のストーリーが少し弱いと感じる。
- ・将来イメージでは、小浜の魅力として、「くらし、自然、歴史・文化」を取り上げているが、小浜の良いところは、奥ゆかしい市民性やおもてなしの精神、あるいは食、郷土料理にもあると思う。「人・おもてなし・食」といった小浜の個性ある魅力を、まちづくりのストーリーに組み込めるとよい。

【委員】

- ・新幹線駅周辺を魅力的にする中で、周辺の居住エリアについての考え方を組み込んでいただきたい。
- ・新幹線駅と JR 小浜線の接続のほか、中心市街地へのアクセスについてももう少し具体的に示していただきたい。

【委員】

- ・どういう居住エリアにするか。福井駅では、高層マンションを建て、高齢者を呼び込んでいるが、小浜の場合、駅周辺に新しい居住エリアをつくるのか、あるいは京都から人を呼び込むのか。いろいろな考え方があると思う。

【委員】

- ・『基本計画』（参考資料 2 p2 右側）の新駅周辺の役割について、「手軽に感じられる小浜らしさ」とは何を想定しているのか。
- ・若者アンケート（資料 1 p16）の結果について、伝統工芸品と回答した中学生以上の数が少ない。若者の残したいものとして、伝統工芸品が入らないことを残念に思う。
- ・『基本計画』（参考資料 2 p2 右側）の課題 3 について、中心市街地が 20 年後どうなっているのか。昨今の寂れ具合が気になるので、早いうちから連動させていきたい。

【事務局】

- ・将来残したいもののアンケート結果に関して、自由回答形式での設問であったため、いくつかの選択肢の中で伝統工芸品が下位だったわけではない。ここでは、伝統工芸品について記述した回答者がいたと認識いただきたい。参考資料 1 の p28 に具体的な意見を掲載しているので、ご参照いただきたい。
- ・「手軽に感じられる小浜らしさ」とは、WS で出た意見であり、例えば、訪れた方々が、新駅周辺で小浜の食をちょっと体験でき、それをきっかけに、市内の既存の観光地や飲食店に行く。新駅周辺で手軽に感じ、本物の魅力を市内に行って体験してもら

うという意味である。

【委員】

- 若者アンケート調査の結果（資料 1 p12）について、小浜市に住みながら進学や進路の選択肢が広がるというのは、私が 50 年前に思ったことと同じである。
- これから 30 年 40 年、小浜がずっと発展していけるかどうか危惧している。神社や森等、来訪者をおもてなしできるように、きちんと維持管理し続けられるのか。この点について、高浜町やおおい町を含め嶺南全体で深めていければいい。
- テレビで、新富士駅が在来線と直結できなかったことを、関係者が後悔しているとコメントしていた。小浜においても、在来線と直結できることが理想である。

【委員】

- 『基本計画』（参考資料 2 p2 右側）の広域の役割イメージについて、舞鶴からの利用者を想定しているが、京都北部一帯が利用圏になるのではないか。
- これから先、テクノロジーの発達に伴い、様々な二次交通が使えるようになるので、基本計画においては、柔軟に考える必要がある。

【委員】

- 舞鶴から先の、京丹後を含む海の京都といわれている地域でも、小浜駅のアクセスが良くなるのではないかという意見であった。次回、数字とともに示してほしい。

【委員】

- 越前たけふ駅では、村田製作所の施設ができて越前市としては良くなった一方で、新幹線より高い建物が出来て新幹線をふさぎ景観が悪くなったという意見もある。以前の、遠くから新幹線を眺められる景観が良かった。
- 今回の開発は、基本的に農地を開拓していくものであり、将来的に開発の可能性がある「新駅関連エリア」も農地である。環境への影響を鑑みると、計画対象地の「新駅周辺エリア」に絞った開発の方が望ましいのでは。
- 二次交通について、在来線と連結している方が、利用者として便利だと感じる。

【委員】

- 送電線と鉄塔の課題（参考資料 2 p1 右側）について、25 年後の新駅の開発にあたって、これらの支障物を動かさないのか。
- 課題 3（参考資料 2 p2 右側）について、その通りだと思う。10 年、20 年先に向けて、中心市街地のまちづくりも進め、新駅が完成する頃にも機能している状態であるべきだ。
- 課題 1 と課題 3 のスケールの違いが気になる。新幹線圏域としては舞鶴から小浜への来訪や、若狭のゲートウェイとしては新駅から高浜町やおおい町とのアクセスも重要である。そして、市内の中心市街地のことも考えるべきである。新駅は、小浜市の色々なことが味わえるだけでなく、若狭エリアも味わえる「若狭の駅」になるといいと考える。

【委員】

- WS の結果を見て、若者も小浜に対して同じような意見を持っていることに安心した。小浜にとっては歴史や文化が重要であり、これらを守るためには、25 年後を想定する断続的な計画であるべきと考える。

- 交通手段は大きく変わらないと思う。二次交通として、まず在来線との結節を目指した上で、モビリティの活用を考えるべきである。他都市の新幹線駅を見ると、事業のスピードの早い駅では在来線と結節できていない例がある。
- 越前たけふ駅では、研究開発拠点を誘致したが、駅舎より背の高い建物となり、8号線からの景観が著しく阻害されたと感じる。トキ（正しくはコウノトリ）が羽ばたくようなデザインの駅舎と聞いたが、8号線からの視線が分断されてしまった。
- 小浜が京都に近づくのではなく、小浜の生活圏内に京都が入ってくると捉え、全国から小浜の1000年の歴史を学びにくるべきと考える。小浜がどのようになっていくのか、どういう役割をもつのかを明確にするべき。

【委員】

- これまでの策定委員会の中で、若者の意見を聞きたいという意見が出たが、今回の資料はWSと若者アンケートがまとめられ説得力があった。
- 『基本計画』（参考資料2 p3 左側）の仮のコンセプトがとても良いと思う。このコンセプトに基づいて、次回委員会以降に周辺エリアをどうしていくのかが出されるとよい。
- JR在来線と新幹線駅が接続していることを前提とした開発ができるといい。

【委員】

- 新幹線駅の開業によって若者の進学や進路の選択肢が広がるということであるが、新幹線駅の継続的な利用者を確保するには、まず学生に目をつけるべきと考える。『基本計画』（参考資料2 p3 左側）の将来像のイメージについて、「くらし、自然、歴史・文化」に教育を加えるのはどうか。
- 教育機関や予備校を駅周辺に誘致し、継続的に若者が来ると駅周辺がにぎわうと思う。

【委員】

- 新幹線の利用者だけでは、ポテンシャルが低いと思う。駅利用者は、越前たけふ駅では470人程度、小浜では300人程度になると考える。
- 国道27号を新幹線に引込み、越前たけふ駅のように、道の駅と新幹線を一体とするのはどうか。鉄道と道路、両方引き込むことでよりにぎわうのではないか。越前たけふ駅では、新幹線駅より道の駅の方がにぎわっている。そういう施策を考えれば、より交流が盛んになるのではと考える。

【委員】

- 国道27号のほかに高速道路もある。

【委員】

- WSの参加者について、男性が多く女性が少ないと前回言っていたが、またWSを開催する場合は、女性の視点も入れるために女性を増やすべきと考える。
- 『新まちづくり構想』（参考資料1 p35）の活動団体の紹介について、いずれかの団体が経済中心に活動していると聞いた。
- 神社だけでなく、落語や芸事といった、20年後継続はしていないかもしれないが、これらの文化が小浜らしさの中心であると思う。金沢駅では、新幹線駅の周辺に音楽堂

をつくったことで全国から音楽を聴きに人々が訪れている。新駅周辺を芸術の場としてはどうか。

- 舞鶴以西の地域については、小浜駅から車で行くことになると思うので、駐車場を駅周辺に大きく確保していただきたい。
- 京都北部を含むゲートウェイになれたらいい。小浜から福井に行くより舞鶴の方が近いことから、観光バスで京丹後をめぐる等、観光の面で、京都北部と連携できるとよい。
- ドラマの効果で小浜に来る人が増えている。新幹線駅ができるまでこの効果を継続できるとよい。

【事務局】

- 今回の WS は全 2 回で終了である。

【委員】

- 『基本計画』の内容が非常に一般的であり、小浜の魅力が引き出されていないと感じた。これだと鯖江駅のような、まったく魅力のない駅になる。
- 若者アンケートの実施はよかった。小中学生は北陸新幹線に対して、夢を持っている。彼らの感じる小浜の魅力（自然、神社・仏閣、まちなみ、食文化）を、本計画の中で一番に反映させなければならない。この夢をいかにブラッシュアップして、日本全国に発信していくか。
- 老後を過ごすなら、都市部より小浜で、いいものを見て食べてゆっくり過ごすのが、スローシティのコンセプトであると思う。SDGs の世界を小浜の地でブラッシュアップしてはどうか。
- 小浜には 1200 年の里山風景がそのまま残っている。これを、全国・世界レベルの小浜の価値としてコンセプトに組み込むべき。

【委員】

- ドラマ「サバ缶、宇宙に行く」で、夢がある世界は美しいというセリフがあった。
- ドラマ内でも言及されていた、小浜の第一印象で感じるのどかさは、自然だけではなく、小浜の市民性が支えていると思う。このような、第 3 者が見た小浜のイメージを大事にする必要がある。
- 若者が地元の自然や歴史文化を評価している。この若者アンケート結果は重視すべき。この世代が新幹線を利用する世代になるので、彼らのもつ夢をどのように継承していくのか。そのうえでは、段階的な計画をやらざるをえない。
- 小浜が、高速交通体系として全国からつながることになる。小浜の良さを継承しながら、社会経済条件、技術革新等をどう組み込んでいくか。
- 小浜の中心は、若狭の中心である。小浜には、若狭地域を底上げするポテンシャルが残っていると思う。
- 36ha の大規模開発は、新幹線駅のようなインパクトがないとできないことである。今後、駅周辺を含めて新しい都心をどうつくっていくかは非常に重要である。
- 大規模な開発による乱開発を防ぐためにも、景観デザインガイドラインはしっかり策定する必要があると考える。『基本計画』（資料 2 p3 右側）の方針 4 が重要になる。
- 越前たけふ駅を参考にしながらよりよい提案ができればよい。

【委員】

- ・『基本計画』（資料2 p3）の整備コンセプトについて、ご意見をいただきたい。
- ・各基本方針に対してもご意見を伺いたい。

基本方針1

【委員】

- ・高次都市機能や駅勢圏をどのように捉えるか。小浜を中心とするか、若狭を中心とするかは、今後の検討課題であり、今後データを踏まえて提案してほしい。

【委員】

- ・北陸新幹線のルートは、来月決まると思うが、小浜ルートについては舞鶴経由となるのか。若狭湾の回廊、広域の中心としての小浜という捉え方のできるルートが重要だと考える。

【事務局】

- ・ルートについては未確定である。

基本方針2

【委員】

- ・新幹線駅周辺は、地域交流の場づくりで終わってはいけない。いかに小浜のリピーターを増やすかという点が重要である。新幹線駅ができると小浜に関わる人が増える。これらの人々を住む人に変えていけないか。今回はこのあたりを掘下げていただければよい。小浜は、日本で唯一日本文化遺産のプレミアに認定されており、この認定は活動に継続性がないと取り消されてしまう。活動を未来へつなげるには、住む人を変えていくことが必要と考える。

基本方針3

【委員】

- ・人口減少も含め、既存の中心市街地の衰退をどう考えるかがポイントである。新駅周辺と既存市街地がお互いに両立するようなイメージであるが、にぎわいが新駅周辺に吸い取られ、既存市街地は衰退する例がある。JR小浜線を活かすことが鍵になると考える。今回はこの点について、数字をもとに議論できればと思っている。

基本方針4

【委員】

- ・もう少し具体化しないと意見が出づらい。
- ・『基本計画』のコンセプトでは、時間軸と空間軸という視点で意見が出ている。「古から新時代への懸け橋」が時間軸、「交流ゲートウェイ」が空間軸を表している。

【委員】

- ・ご意見を聞いていると、基本方針1から4が結びつく。広域交通の拠点性、駐車場の整備は基本方針1。若狭全域が見えるような地域観光の拠点は基本方針2。教育や文教地区は基本方針3や基本方針4。これらが回遊性でつながるようになるとうい。

【委員】

- 基本方針の4つの柱は前回の委員会で既出のものか。

【事務局】

- この4つの柱は今回の委員会で初めて提示したものである。

【委員】

- 『基本計画』は、ここからさらに踏み込んだ内容を出すのか。

【委員】

- 次回以降は、具体的な整備方針、土地利用ゾーニング、導入機能等を深めていく。駐車場の規模や、新駅周辺エリアの外側のゾーニング等も話題になるのではないかと。

【委員】

- 新幹線駅は新しい若狭の拠点になる。駅のイメージが小浜のイメージを決定することになると考える。このあたりも次回の議題になるとよい。

【事務局】

- 『基本計画』の中では、ゾーニングが最終のアウトプットになる。駅舎イメージは、ロータリー規模等に関して具体的な想定がないと描けないため、今後数字を精査していく。

【委員】

- 事業認可が下りてからでないと難しいが、駅舎のコンセプトやデザイン等について、地域から提案できる。それらの意見を踏まえて、鉄道・運輸機構が3案ほど提示し、地域で選択して設計を進めていく進め方になっている。地域主導型の駅舎づくりが進められる。
- 駅施設、特に駅前広場については、従来のような個別の自動車だけではなく、シェアモビリティ等を考慮した段階的な整備となる。
- 駅周辺の機能については、若狭地域全体の視点から、本当に必要な機能・施設を考える必要がある。例えば、各市町が持っている機能を統合する等、駅勢圏の視点で整備する。今後の更新時期を踏まえて小浜市から働きかけるべきである。

5. 閉会

【委員】

- 本日、委員の皆様から頂いたご意見は次回以降の協議に反映する。第4回では、基本計画の骨子案へと移りたい。
- 以上で、本日の委員会を終了する。

6. 今後のスケジュール

【事務局】

- 次回、第4回委員会は8月頃に開催予定です。第4回では、将来人口・交通需要予測など、より具体化した数値を基に整備計画の骨子案を作成し、皆様に検討いただく予定である。
- 詳細な日程は後日案内する。